

第3回「防潮堤を勉強する会」要旨

第一部 日時：2012年8月16日（木）13時00分から15時30分 場所 ワンテン大ホール

1. テーマ「堤防と合わせた市の防災整備計画について」 講師：気仙沼市副市長 大江真弘 氏 気仙沼市復興支援計画の概要

➤ 平成23年度～32年度を復興復旧期間、特に平成23年から5年間を集中復興期間とする。

復興の基本理念

- 悲劇を繰り返さない。防災減災。
- 経済安定、もとどおりの右肩下がりのものに戻すだけではない産業の基盤づくり。
- 津波死ゼロのまちづくり

防災・減災の考え方

- 国の中央防災計画の基本的な考え方の基準として、津波レベルをL1 L2にわけると。
 - L1 数十年から百数百年に一度のもの。→人命財産を河川堤防などで守っていく。
 - L2 それを上回る、千年に一度というもの。→避難を軸に総合的な減災を考える。
- 総合的な津波防災対策について、防災施設、まちづくり、防災体制の充実という三本柱を考えていく。

まちづくりの基本的考え方

- 市街地部と集落部にわけると
- 防潮堤の整備、災害危険区域の制定、盛土かさ上げを国の事業を用いて行う。

2. テーマ「市域防潮堤計画の全体像と地区説明会の実施状況」

講師：宮城県気仙沼土木事務所 次長 菅野洋一氏

宮城県北部森林管理署 専門官 佐々木正人氏

地区説明会の実施状況

- 2012年7月から12カ所で説明会開催。総勢1500名以上の方が出席。
- 土木事務所のHPに説明会の内容や質問に対する回答を掲載。

説明会の内容

- 防潮堤の位置、形状については今後住民の方と相談の上決定していく。
- 地盤沈下に対する事業はない。盛り土嵩上げの予算もない。
- 防潮堤に関して、景観環境に対する配慮、避難についての質問が多くあった。

3. 質疑からわかったこと

- 防潮堤の位置や形状についてはこれから地域の方との話し合いで決めていく。
- 防潮堤建設は環境アセスメント法の対象外。時間のかかる環境調査はやらない。
- 地盤沈下に対するかさ上げ事業が存在しないので、既存の事業で行えることからやってくる。

- 財産の定義はない。どこまでを守るかは千差万別で、市と地元民の話し合いが必要。
- 住民の合意形成の進め方・手法については未決定。
- 市も県もコンクリートの防潮堤以外、具体的な検討をしていない。
- 防潮堤と合わせた防災計画（避難路、避難タワーなど）の考え方は出ているもののまだ明確ではない。
- 防潮堤より海側に建てられる施設については今後早急に検討していく。

<次回 第6回「防潮堤を勉強する会」> 8月29日（水）18:00～ 魚市場3階会議室
「各地区での話し合い及び気仙沼市の選択肢の可能性」 関西大学 長峯純一教授 他

HP : <http://seawall.info>